

前回までの意見整理

資料1

番号	分類	意見概要
1	全体	総論において、政策転換を明確に記載しているところが画期的である。各論では、その転換のニュアンスが反映されていない。高齢者保健福祉計画にある実施中の事業をもっとリニューアルしていくようなもの等あると思う。各論にもう少し書き込むべきである。
2		政策転換のためには、施策の方向性を決めるだけではなく、同時に実現手段も具体的にイメージすること。
3		世代間の生活様式や考え方、また、価値観がかなり違う人たち両方を視野に入れ、そこから高齢者の保健福祉のあり方について見通していかなければならない。将来の保健福祉の担い手のあり方やそれをサポートする公的な制度、仕組みも含めて、かなり大胆に考えていかなければならないのではないと思う。
4		実績に使われている数値が、利用者数など物理的な指標ばかりとなっており、質的な評価を検討すべきである。
5		将来を見据えたときには、行政として本当にやらなくてはいけない部分と、そうではなくて、別なところに実質的な動きをある程度任せられる部分というのを記載できたらよい。
6	基本理念等	「住み慣れた地域で自立した」という部分において、「自立」という言葉は、精神的な自立や経済的な自立、身体的自立などのイメージがあり、言葉としてなじみにくいと思う。表現を検討いただきたい。
7		認知症については、今後、重要なテーマの1つとなるということで、基本目標として挙げてよいと思う。
8	基本目標 1	自治会の活動や民生委員さんの活動が、従来のやり方では継続が非常に困難になっているところもある。その部分の担い手をどのようにしてカバーできるかについて、今回の計画の中にわかりやすい表現で盛り込むべきである。
9		「シルバー人材センターを中心に」という言葉が、どのような意味をもたらすのかというのを十分検討し、シルバー人材センターをどのようにするのかははっきりすべきである。その際には、地域貢献の観点も加えると良い。
10		生きがい就労というものを、みんなで明確にしていきましょう、提示して共有していきましょうということをやるべきである。また、地域ごとに状況が違うことを念頭に入れたい。
11		「老人クラブ」など団体や施設については、「老人」という言葉が、一種のバリアになっていることを念頭に入れたい。
12		老人クラブは加入者増のため、魅力づくりに取り組んでおり、行政は健康寿命延伸などについて、老人クラブと連携されたい。
13	基本目標 2	住まいについては、「高齢者のニーズに合った住まい」「所得に合った住まい」などを丁寧に書くほうがよい。福岡市は賃貸住宅の割合が多いので、高齢者になった場合に、安定・安心して住める住環境というのは大切である。
14		軽費老人ホームについては、今後、整備計画としてどう考えているのかについてコメントがあるとよい。
15		「高齢者住まい・生活支援モデル事業」については、対象となる高齢者は、現在のプラットフォームに含まれているサービス・業者だけではなく、福祉ケアも同時に必要な高齢者である。真の問題解決のためには、福祉専門職のいる社会福祉法人が組織化して関わる必要がある。
16		敬老祝金・祝品の事業費については今後も伸びていき、このままでは、相当な財政上の負担になってくる。現在の慶弔の仕方に代わるものを検討されたい。

番号	分類	意見概要
17	基本目標 3	認知症の普及・啓発するためには、かなり簡単で簡略なキャッチコピーが必要。早期発見については、敷居を低くして受診されるような働きかけが大事。同時に、認知症が特殊な病気ではないというイメージを皆さんに理解していただく。そのような社会的な背景やムードにしていきたい。
18		認知症対策の項目の中に、一般介護の支援についても記載されている。整理の仕方を検討されたい。
19		認知症の方々を介護する人の負担というのは非常に重く、特に若年の認知症の方を、家族あるいは夫婦で介護する状態が15年、20年も続くと、介護する人も疲弊してしまうので、支援を盛り込むと良い。
20		認知症については、すべてを介護施設に頼るというのはよくないと思うが、認知症患者が入れる介護施設をこれからどうするのかを記載すべきである。
21	基本目標 4	過去に教育職員や病院の看護師さんの人材育成というのは、国を挙げて実施している。介護職員も、人材が不足すると言うのであれば、国を挙げてやるべきだし、国がやらないなら、市独自に実施すべきである。
22		介護保険制度については、運営する立場だけではなく、サービス提供者や利用者の観点を踏まえ介護保険制度をトータルでどのように適切に活用するかという視点があるとよい。
23	基本目標 5	高齢者にとってのワンストップサービスが必要。いきいきセンターふくおかは、その候補となる。いきいきセンターの役割を整理し、必要な機能を検討し、ワンストップサービスの機能を発揮すべき。
24		ICTなどを活用し、お互いに情報の共有化ができれば、サービスの内容についてのダブリも比較的小さくなるだろうと思う。
25	その他	健康寿命と平均寿命との差をいかに埋めるかということが非常に貴重。平均寿命のデータを示す時には、健康寿命に関連したデータもセットにするとよい。 健康寿命については、都道府県別や外国との比較もできるほうが良い。外国の場合、寝たきりの人というのはかなり少ない。健康づくりについての啓発が必要になると思うが、健康寿命の長い国・地域はどのようにして健康寿命を延ばそうとしているのかという具体的な例があると、より啓発が進むのではないのか。
26		福岡市は借家率や共同住宅率が高い状況であるが、一戸建て持ち家が浸透しているところと違って、逆に、ニーズに応じた住宅政策をつくれれば効果的にやりやすいと思う。高齢者の住まいということに対しても、政策的なアプローチをしっかりとることが必要。
27		認知症カフェを増やすということが、新しいオレンジプランの中に入っており、早期発見・早期診断のためには、カフェのような気軽な場がもっと増えると、実効的になると思う。
28		全体的に高齢者問題、子育て問題と切り離して考えているが、大きなビジョンに立てば、双方を含めて持続可能なコミュニティづくりという視点も重要である。子供たちが意識を持つとか、ちょっとした介護ができるようなことを、学校での教育を含めて検討できないか。